

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立入野中学校





平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を受け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：平成30年6月7日（木）

■ク ラ ス：2年A組（25名）、2年B組（25名）

■オリンピアン：松村 亜矢子 先生（水泳・シンクロナイズドスイミング 現 水泳・アーティスティックスイミング）

■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限）



1. 自己紹介～授業の目的確認



・簡単な自己紹介の後、今日は運動の時間を通してシンクロナイズドスイミングを体験してもらいたいと話す。①頭と身体を同時に動かすこと、②楽しんで思い切り身体を動かすこと、③オリンピックシンボルが五大大陸のつながりを表しているように、各班で一体感を出すことの3つを授業の目的として伝える。間違ふことは恥ずかしいことではないので、授業中は積極的に発言すること、お互いを称え合うことも忘れずに取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

2. 準備体操



3. 主運動



・4班に分かれてダンスを実施。課題曲に合わせて振付を覚え、2班ずつ発表。松村先生を含めた3名の先生で楽しみ度4点、班の一体感3点、全力度3点、合計10点満点で採点し、順位を決める。最後のポーズは班の一体感が見えるようにというテーマで自由に考えることとした。
・松村先生より、他班がダンスを披露している際にも、手拍子をしたり、声を出しながらダンスをしていたのが良かったと伝える。

4. まとめ



・冒頭で話した授業の目的を達成できたか確認。運動の時間では採点競技の難しさや一体感を出すことを体験してもらえたのではないかと話す。
・座学の時間では、松村先生の経験を紹介しながら、オリンピックについて詳しく説明すると伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・この時間ではオリンピックバリューについて学んでいきたいと授業の目的を確認。オリンピックバリューはオリンピック選手だけのものではなく、皆の夢や目標を叶えるためにも大切なことである。松村先生の経験を通して感じたオリンピックバリューを説明。

3. グループワーク



発問：夢や目標を達成するために必要なことや頑張りたいことをオリンピックバリューにあてはめて考えてみよう。

発表：各班の代表者1名が前へ出て発表。

良い結果が出せるように努力する、諦めない、練習に一生懸命取り組む、失敗を恐れずに挑戦する、全力を尽くす等(エクセレンス)心を1つにする、一致団結、仲間を思いやる、お互いを高め合う、声を掛け合う、アドバイスをし合う、全力で応援する等(フレンドシップ)先生や先輩に感謝する、人のために自分から行動する、道具を大切に使う、挨拶をしっかりする、相手を思いやる等(リスペクト)

4. まとめ



・運動と座学の時間を通して皆にもオリンピックバリューを感じてもらえたと思う。オリンピックバリューは、3つ全てつなげて体現することで、夢や目標の達成につながるかと伝える。考えるだけでなく実際に行動に移して、継続することが大切で、続けるためにはどんなことでも楽しめるように、辛いことや苦しいこともどのようにしたら楽しむことができるか、自分なりに考えてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年A組



2年B組





■ 記念品贈呈

2年A組



2年B組



■ 修了書贈呈

